

▶▶▶ 外国につながる子どもへの教育支援共創プロジェクト

# 外国につながる子どもの日本語支援・ 母語支援を通して、多文化共生の社会を目指す

## ▶ プロジェクトメンバー

○長友 文子（日本学教育研究センター）  
有馬 専至（Kii-Plus）  
中村 憲司（Kii-Plus）  
野村 美雪（Kii-Plus）

○はプロジェクト代表

## ▶ 共創相手

和歌山市教育委員会  
和歌山県国際交流協会  
和歌山市立楠見・大新・宮前・貴志・吹上小学校  
和歌山市立河西中学校、かつらぎ町教育委員会  
かつらぎ町笠田小学校

## プロジェクトについて

外国人の定住化が進み、外国につながる子どもも増加している。「外国につながる子ども」とは、両親の国籍、本人の国籍を問わず、様々な理由で外国語を母語として育った子どもたちの総称である。

こういった子どもたちに必要な教育支援は、多岐にわたっている。不自由な日本語の支援をどうするか。母語を忘れないための母語支援をどうするか。また、日本語と母語に挟まれた子どもたちのアイデンティティ形成の問題や、日本人の子どもたちとの交流による多文化共生意識の醸成という問題もある。

和歌山でも、数は少ないが、教育支援が必要な外国につながる子どもがいる。

私たちは4年前に、和歌山大学の地域貢献の一環として、この問題に取り組むためのプロジェクトをはじめた。留学生が日本人学生と共に、「外国につながる子ども」たちの日本語支援・母語支援を中心として、さらに就学や防災教育支援などの活動を行ってきた。支援する学生たちの側でも、子どもへの支援活動を通して、多くの事に気づき、多くのことを学ぶことができた。

文部科学省の2024年3月の統計でも、外国につながる子どもたちは増加しているが、私たちのプロジェクトについても、教育委員会を通して学校からの母語・日本語支援の依頼は、年々多くなっている。

## 今年度の活動内容

今年度は以下の活動を行った。

## 1) 外国につながる子どもと留学生の交流

これまで同様、和歌山市教育委員会との連携活動として、市教委の担当者が市内の小学校について、当該児童がいる学校とその児童数を調査してくれた。受け入れ校の希望を優先し、小学校6校、中学校1校の児童生徒を支援することになった。

6校のうち、2校は前年度からの継続であり、4校は今年度新たに支援を依頼された小学校である。これら4校のうち1校は市内ではなく、かつらぎ町の小学校であった。それぞれの小学校の子どもへの支援については、次のような手順で実施した。

市教委から連絡があった学校に、プロジェクトの担当者と市教委の担当者が行き当該小学校の校長・担任と事前に打ち合わせを行う。留学生が初めて、学校に行くときはプロジェクトの担当者が留学生の引率を行う。留学生の指導については、子どもの基本的な情報をもとに、留学生に事前指導を行ったあと、留学生を学校に派遣する。留学生は、1か月ごとに行った支援内容を事後シートに書いて担当者に送り、担当者は、それをもとに留学生に事後指導を行う。

継続の2校については、留学生が授業中に当該児童のそばに座り、子どものわからないところを母語や日本語で対応した。また、児童がルーツを持つ国の文化

については留学生がその時の会話の中で説明した。

新たに依頼のあった4校については、それぞれの児童の背景などが複雑な事情もあり、また、年齢も違うため、学校の要望に応じて、子どもの支援をするように指導した。また、本プロジェクトの教育支援は、母語・日本語支援のほかにも、当該子どものいる教室で留学生が母国の文化紹介を行うこともある。(下図(1))

さらに、今回新たに依頼のあった中に、中学校からの依頼が1件あった。依頼内容は、昼休みに、留学生と当該生徒が同じ母語で会話をしてほしいというものであった。当該生徒は、日本語はできないが、教科の科目の内容は中国ですでに学んでいるため問題ないが、母語で自由に言いたいことが話せ、年齢も近い支援者が必要だったということである。

## 2) 留学生とかつらぎ町の人々との交流

2023年10月29日にかつらぎ町で開催された「みんなでぐるっとハロウィンマルシェ」に本学留学生が「和歌山大学留学生ブース」を出展した。ベトナム、中国、オーストラリア、韓国の留学生が地元の方々に自国の文化紹介をしたり、民族衣装を体験していただいたり、様々な形で交流ができた。(下図(2))



(1) 留学生の母国の文化紹介



(2) 留学生ブース

## プロジェクトの成果

本プロジェクトの共創相手である和歌山市教育委員会の担当者とは、メールでのやり取りを頻繁に行い、学校訪問を一緒にしてきたが、これまでの活動について、2024年3月28日に意見交換会を開催し、以下のコメント・評価を頂いた。

「貴プロジェクトと連携してやってきて、4年目を迎えるが、これほど、各学校に外国につながる子どもがいるとは思わなかった。また、子どもたちが、言葉で困っていることが大変だとは思っていたが、ここまで深刻で社会問題にまでなっているとは思っていなかった。子どもたちが母語で留学生と話をしている時の表情が明るいことに驚いた。日本に住んでいるから日本語だけを学ぶということではなく、母語を忘れないようにするのは、子どもが自分というものを大切にするなかで非常に重要なことなのだと改めて分かった。これからも、貴プロジェクトと連携しながら、外国につながる子どもへの支援をしてゆきたい。」

本プロジェクトを2020年7月に立ち上げてから、4年目を迎えようとしているが、大きな成果は、外国につながる子どもが抱える問題が明らかになり、それに私たちはどのように対応していったらいいのかということに真摯に向き合う人が増えたことである。また、留学生の支援を通して、当該子どもと留学生がお互いに楽しい時間を共有したことである。

市教委からのコメントからも分かるように、本プロジェクトがこれまでしてきたことは、小さな一歩であるが、近い将来起こりうる大きな問題への警鐘ともいえるのではないだろうか。

プロジェクトに関するお問い合わせ

地域協働ネットワークセンター

E-mail : [region@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:region@ml.wakayama-u.ac.jp)

URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/projects/foreignchildren/index.html>

